

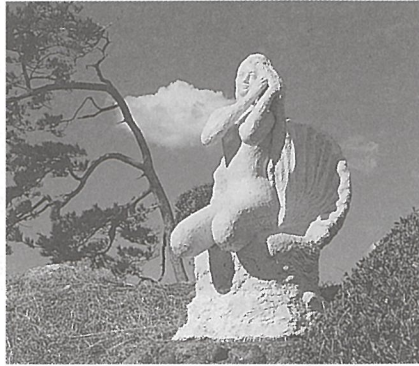
(家族向・一般向)

富士見彫刻ラインと江戸時代の石切り場跡を訪ねる

国道136号線、松崎町内の道部から岩地までの海岸線には地元彫刻家の作品20点が野外展示されているため富士見彫刻ラインと呼ばれている。沿線からは青い海岸線が望め、山や西伊豆の美しい海岸線が望め、彫像と共に名所となっている。

沿線に江戸時代の石切り場跡の洞窟「室岩洞」がある。ここで切り出される石材は俗に伊豆石、または磯石と呼ばれる海岸線の崖地を造っている凝灰岩質砂岩である。火に強く柔らかくて加工しやすいので、昔は石垣や蔵、家の土台、カマドなどに使われていた。昭和29年(1954)こ

歩程 約 40分



▲沿線に立つ彫像

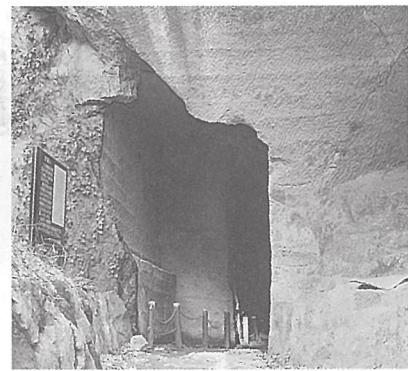
ろまで採石が行われ、松崎町内や下田市内で伊豆石を使った土蔵が多く見られる。地元ばかりではなく、船で江戸や横浜方面にたくさん運び出され、お台場に使われたという。

松崎から雲見入谷行き、または伊豆急下田駅(マーガレットライン経由) 行きのバスで5分、造船所で下車。歴史の散歩道の長八美術館から歩いてよい。ただし、道部から造船所までは道が狭いので交通量の多い時は避けたほうがよい。

造船所のバス停を降りたら右下に高木造船所を見ながら道なりに進む。沿線にはさつき彫像が登場する。室岩洞までの500mの間に4体展示されている。

新しく出来た室岩洞トンネルの手前から右に旧トンネルへと入る。トンネルを抜けると右につり人のボラ道がある。ウバメガシの林を抜けて岩場に降りるとつり人の姿がある。ここから西伊豆の海岸線と晴れていれば富士山も望める。(岩場なので足元に注意して歩こう)。新トンネルの先から歩道を少し歩

けば室岩洞降り口に着く。3〜4台駐車可能なスペースとトイレがある。ロープ柵のある急な丸太の段を下るとすぐに室岩洞の入口。案内板と注意書がある。



▲室岩洞の入口

が消えると真つ暗となるので時間内に出るように指示してある。

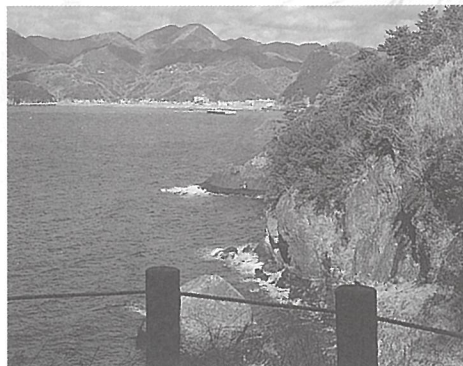
洞内の広さは2000m<sup>2</sup>で洞内の遊歩道は、およそ180m。順路の矢印に従って洞内をぐるりと巡ってみよう。内部には作業風景が人形によって再現されている。

石職人がノミやゲンノウ、クサビなどを使い石を切り出した跡が生々しく残っている。とりわけノミの跡は一つの模様のように壁に刻まれ、石を切り出す苦勞がしのばれる。機械もない時代に、これほどの仕事を

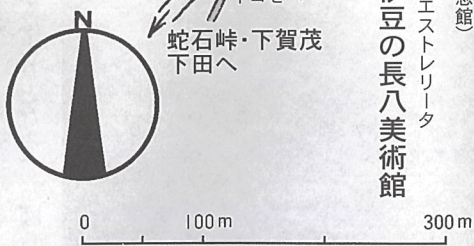
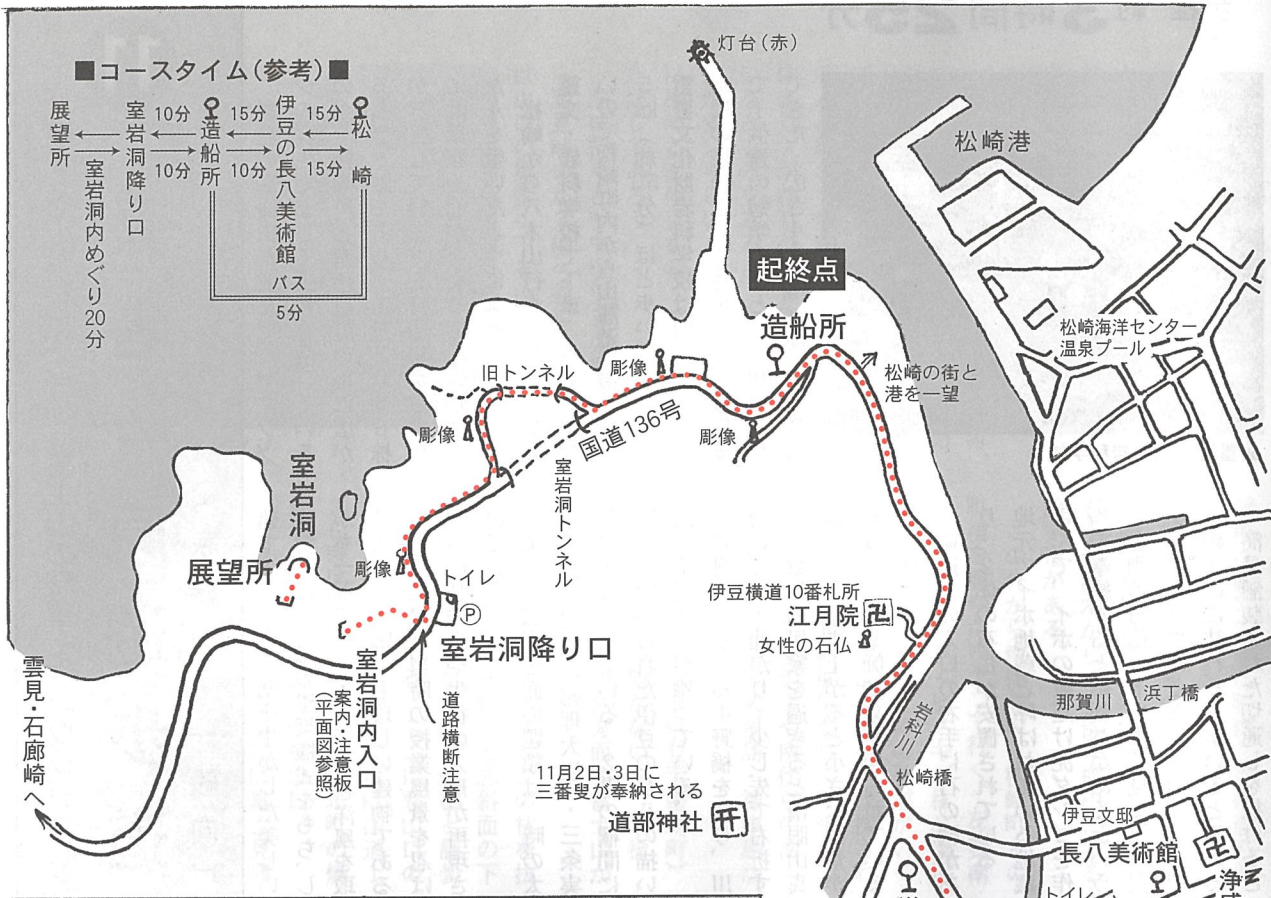
するのは並大抵のことではない。地下水がたまった採掘跡もいくつかあり、神秘的な色と染み出たしずくが水面に落ちる音が不思議な空間を作っている。

光の届かない暗い奥からキキキと鳴く声がある。洞内に住むコキクガシラコウモリだ。コウモリは夜行性の小動物で、超音波を出して、跳ね返ってくる音の時間から距離を測り、暗闇でも自由に飛ぶことが出来る。夕方になると外へ出て昆虫をとらえて食べている。コウモリは人間を恐れて暗い奥の天井にひそんでいるので驚かさないうる静かに観察しよう。

海側の展望所に出ると西伊豆の海と山並み、富士山も望め、すばらしい景色がある。帰りはもと来た道を戻る。



▲展望所から西伊豆の海岸線



▲室岩洞内